

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

# 吉田南 & 福間洸太郎 デュオ・コンサート

～ストラディヴァリウス

1716年製ヴァイオリン「ブース」を聴く～



2022年

1月19日(水)

18:30開演

サントリーホール ブルーローズ

(東京都港区赤坂1-13-1)

主催 日本音楽財団

助成 日本財団



## 日本音楽財団について

---

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。保有する世界最高クラスの弦楽器を21挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

## 配信について

---

長引くコロナ禍において、当財団主催演奏会の中止が続いており、楽器被貸与者の演奏を聴いていただくことができない状態にあるため、この公演は、広報の一環としてライブ収録を行い、その映像をインターネットで無料配信いたします。配信開始については日本音楽財団webサイトにてご案内いたします。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。





# Program

---

モーツァルト  
ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K304

- I. アレグロ
- II. テンポ・ディ・メヌエット

ブラームス  
ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 作品108

- I. アレグロ
- II. アダージョ
- III. ウンポコ プレスト エコンセンティメント
- IV. プレスト アジタート

フランク  
ヴァイオリン・ソナタ イ長調

- I. アレグレット ベンモデラート
- II. アレグロ
- III. レチタティーヴォ - ファンタジア
- IV. アレグレット ポコモツ





## モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K304

---

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1791年）のヴァイオリンソナタのなかで唯一、短調である。完成されたのは1778年の初夏。ドイツのマンハイムからパリに移った頃にあたり、マンハイム・ソナタと呼ばれている。アロイジア・ウェーバー（妻となるコンスタンツェの姉）との恋を父レオポルトに反対されたり、就職活動がうまくいかなかったり、母アンナが死去したりと、つらい出来事が続いた時期であった。

鍵盤楽器が主役であった1760年代の初期ソナタと比べて、このソナタでは、ヴァイオリンと鍵盤楽器がより対等な関係を築いている。同年には、初めて交響曲にクラリネットがとり入れられており（「パリ」交響曲）、若き作曲家が、旅先の各地で新しいスタイルを貪欲に吸収していった姿がうかがえる。

ユニゾンで始まる第1楽章は、コントラスト豊かな強弱や突然の音程跳躍にはっとさせられる。第2楽章はため息をつくかのようなメロディが続くが、つかのま穏やかな調べが挟まれる。

## ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 作品108

---

ヨハネス・ブラームス（1833～1897）の「ヴァイオリン・ソナタ」は3作ある。「第1番」は46歳で完成されたから、自身が名手であったピアノ作品に比べると、遅咲きのジャンルである。

「第3番」は1886年から88年にかけて、スイス西部のトゥーン湖畔で作られた。同時期に「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」を発表し、不仲となっていた友人の名ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムとも和解。この協奏曲を最後の管弦楽作品として、その後ブラームスは、室内楽やピアノ曲、歌曲に集中する。内省的な傾向が増していく頃だ。

第1楽章はピアノのシンコペーションが耳を引く。拍節をぼかすようなリズムは後期ブラームスに特徴的で、第2楽章でも2小節を1小節に見立て3拍に分けるヘミオラという複合的なリズムが聴かれる。第3楽章では冒頭部分が再現される時に奏法が変化するので注目。終楽章は「アジタート（“激しく”とか“急きこむように”といった意味）」と指示されており、緊張感のある和音で始まる。





## フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調

---

ベルギー出身でフランスに帰化したセザール・フランク（1822～1890）は、教育者やオルガニストとしても名高い。今日知られる彼の作品の多くは、50代半ばを過ぎてからのものだ。

唯一の「ヴァイオリン・ソナタ」も、63歳の時。同郷の名ヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイの結婚祝いとして創られた。イザイ夫婦が初演を行って以降、チェロ用などの編曲版を通して親しまれている。

第1楽章はピアノの緊張感を高めるような和音を使いながらも、気だるさを秘めて始まる。冒頭でヴァイオリンが奏でる主題はいくつかのモチーフから構成され、これらが楽章を超えて現れる。循環形式と呼ばれる、フランクお得意の作曲法だ。第2楽章は情熱的に揺れる部分と、展開部（第90小節～）の問いかけるようなフレーズがじつに対比的。レチタティーヴォ・ファンタジアと題された第3楽章の幻想的な語りにつき、終楽章では輪唱のようなカノン技法を活用した主題の合間に、これまでに登場したモチーフが挟まれる。

解説：西田紘子

## ストラディヴァリウス 1716年製 ヴァイオリン「ブース」

---

1855年頃にイギリスのブース夫人が所有していたため、現在の名が付けられている。彼女はヴァイオリンの才能を発揮した2人の息子たちのためにストラディヴァリウスのクアルテットを形成しようと試み、この楽器を購入した。1931年にアメリカの名高いヴァイオリン奏者ミッシャ・ミシヤコフ（1896～1981）の手にあたり、1961年にはニューヨークのヘンリー・ホッティンガー・コレクションの一部となった。音色の美しさ、音の力強さにおいて知名度が高く、保存状態も優れている。





© 武藤章

## 吉田 南

*Minami Yoshida* Violin

1998年奈良県生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋女子高等学校音楽科卒業後は桐朋学園大学音楽学部ソリストディプロマコースを学費等全額免除特待生として修了した。現在、学長奨学金を得てニューイングランド音楽院、特別特待奨学生として東京音楽大学アーティストディプロマコースに在籍し、ミリアム・フリード、原田幸一郎、竹澤恭子の各氏に師事している。これまでに、2014年日本音楽コンクール1位及び5つの特別賞受賞の他、2015年シベリウス国際ヴァイオリンコンクール、2016年モントリオール国際音楽コンクール、2021年ハノーファー・ヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリンコンクールなど数々のコンクールで入賞を果たしている。12歳で大阪フィルとの共演を皮切りに、国内のオーケストラ以外にも、ヘルシンキ・フィル、フィンランド放送響、モントリオール響など多数の著名なオーケストラと共演している。また、ボストン、シカゴ、ニューヨーク、テキサスの他、カナダ、ドイツ、オランダ、ベルギー、フィンランド、シンガポール、韓国、台湾など様々な国や地域で演奏を行っている。2021年8月より日本音楽財団所有のストラディヴァリウス1716年製ヴァイオリン「ブース」を使用している。

アспенホームページ：<https://www.aspen.jp/artist>





©Marc Bouhiron

## 福間 洸太郎

*Kotaro Fukuma* Piano

パリ国立高等音楽院、ベルリン芸術大学、コモ湖国際ピアノアカデミーにて学ぶ。20歳でクリーヴランド国際コンクール優勝（日本人初）およびショパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンター、ウィグモアホール、ベルリン・コンツェルトハウス、サルガヴォー、サントリーホールなどでリサイタル他、クリーヴランド管、モスクワ・フィル、イスラエル・フィル、フィンランド放送響、ドレスデン・フィル、トーンキュンストラ管、NHK交響楽団など国内外の著名オーケストラとの共演も多数。2016年7月にはネルソン・フレイレの代役として急遽、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団定期演奏会において、トゥガン・ソヒエフの指揮でブラームスのピアノ協奏曲第2番を演奏し喝采を浴びた。またパリにてパリ・オペラ座バレエ団のエトワール、マチュー・ガニオとも共演するなど幅広い活躍を展開。CDは「バッハ・ピアノ・トランスクリプションズ」（ナクソスジャパン）などこれまでに17枚をリリース。2020年7月より、珍しいピアノ作品を取り上げる演奏会シリーズ「レア・ピアノミュージック」もプロデュースしている。テレビ朝日系「徹子の部屋」や「題名のない音楽会」、NHKテレビ「クラシック音楽館」や「クラシック倶楽部」などにも出演。第39回日本ショパン協会賞受賞。現在ベルリン在住。

オフィシャル・サイト：<http://www.kotarofukuma.com>





日本音楽財団  
NIPPON MUSIC FOUNDATION

お問合せ：  
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目2番地2号  
公益財団法人日本音楽財団

Tel : 03-6229-5566  
Fax : 03-6229-5570  
Email : [info@nmf.or.jp](mailto:info@nmf.or.jp)  
<https://www.nmf.or.jp>

